

滋賀県保育者のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標モデル【保育者】

【 滋賀県がめざす保育者像 】 1 愛情をもって乳幼児と関わり、使命感と責任感をもって人 2 柔軟性と創造性を備え、専門的指導力をもって人 3 豊かな人間性と社会性をもって人

保育者として必要な基本的な資質・能力	(1) 乳幼児を理解し、育ちを支える力（乳幼児理解）・・・ 乳幼児の発達の過程や一人ひとりの特性を理解し、遊びや生活を通してその育ちを支える。 (2) 専門性を高め、よりよい保育をつくる力（保育の実践力）・・・ 自らの実践を振り返り、専門性の向上のために学び続ける姿勢をもち、保育・教育の質を高めていく。 (3) つながりを生かし、共に学び合い、支え合う力（連携・協働）・・・ 保護者や同僚、地域等と信頼関係を築き、連携・協働しながら保育・教育を推進する。
滋賀県保育者として特に磨いてほしい資質・能力	(1) 乳幼児の「夢中」に寄り添う感性と応答力・・・ 乳幼児が心を動かし、夢中になる姿を見逃さず、遊びを深めていくためのまなざしと関わりをもつ。 (2) 滋賀の自然・文化を保育に活かす創造力・・・ 地域の自然や文化を保育に取り入れ、乳幼児の体験を豊かにする。 (3) 連携・接続を意識した関係づくりの力・・・ 乳幼児期までの育ちが学童期以降の学びに切れ目なくつながるように、関係者と連携する意識と実践力をもつ。

	ステージ区分	I 養成期	II 初任期	III 向上期	IV 充実発展期	V 深化貢献期
		養成段階	1年目～3年目	4年目以降	主に11年目以降	
		(幼児教育の基本を学ぶ)	(保育者としての自立に向かう)	(実践の中核を担う)	(園運営の一翼を担う)	(園の経営マネジメントを担う)
行動目標		幼児教育の基本を身に付ける	実践することを通して、理論として知っていることを実感として捉える	実践を積み重ねる中で、乳幼児の発達や体験の連続性等も踏まえ、育ちや学びをより深く捉える	自分なりにつかんできた保育の醍醐味を通して、同僚性、協働性等を発揮する	リーダーシップを発揮して、園の経営マネジメントを担う
保育者に求められる資質・能力(専門性)		育 成 指 標				
A 乳幼児を理解し、育ちを支える力 (乳幼児理解)	①温かなまなざしをもって乳幼児をみる力	○乳幼児の思いや行動、その子らしい表現を大切に受けとめることが、乳幼児の安心や自分らしさの発揮につながることを知る。	○乳幼児に進んで関わり、一人ひとりの姿や表現を肯定的に受け止める。	○乳幼児一人ひとりの育ちや背景を踏まえて、その子の視点に立った思いや行動の意味を理解する。	○乳幼児の発達や特性を多角的に捉えて、他の職員と共に理解を深める。	○職員が乳幼児の権利を尊重する姿勢をもてるよう、園全体に発信し、学び合いを促す。
	②その子らしさを捉え、共に楽しみながら乳幼児に寄り添う力	○乳幼児の遊ぶ姿を見たり、同じ遊びに参加したりしながら、乳幼児の気持ちに寄り添い、一緒に楽しむ。	○乳幼児の思いに寄り添い、うれしさや驚き、感動や発見を共に味わいながら関わる。	○乳幼児の考えや豊かな発想に気づき、共感しながら応答し、楽しみながら遊びをともに広げていく。 ○職員と連携を図りながら、乳幼児一人ひとりの発達を理解し、援助を工夫する。	○乳幼児に寄り添いながら共に創り出す保育を、園全体に広げる中心的な役割を担う。 ○乳幼児の発達に応じた保育について、職員と実践を共有しながら語り合い、理解を深める。	○職員の思いやよさを大切に受け止め、安心して実践できる環境を整えながら、乳幼児と共に創り出す保育を支える。
	③遊びを通した学びを支える力	○乳幼児期の発達の特性や、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを知り、乳幼児の体験することや思いを感じ取る大切さに気づく。	○乳幼児の生活や遊びの様子から、育ちつつある姿を見つける。 ○先輩の乳幼児の姿の捉え方や、保育を見たり助言を受けたりしながら、一人ひとりの興味・関心と遊びのつながりを知る。	○乳幼児の育ちつつある姿を、生活や遊びから多角的に捉える。 ○他の職員と乳幼児の姿の捉え方を共有し、遊びの展開に生かす。	○乳幼児の育ちつつある姿や遊びの捉え方を、職員が互いに語り合える環境をつくる。 ○職員が共に学び合うことを促し、遊びを通した学びの理解を深める。	
B 専門性を高める(保育のよ実り践い)保育をつくる力	④保育・教育のねらい及び内容を理解し、実践につなげる力	○要領・指針に示された、乳幼児期の保育・教育の目標や「育みたい資質・能力」を学び、ねらいや内容の基本的な意味を知る。 ○乳幼児の姿から、ねらいや内容、環境構成や援助を考え、指導計画の作成・実践に生かす大切さを知る。	○全体的な計画を意識しながら、先輩の助言や支援を受けて、乳幼児の発達や興味・関心に応じた短期の指導計画を作成する。	○長期の指導計画を見直し、生活や遊びの体験の多様性や連続性を踏まえて、短期の指導計画に反映させる。 ○観察や記録をもとに乳幼児の体験から学びの姿を捉え、指導計画に取り入れる。	○園の実態に基づいて、指導計画の作成の中心的な役割を担う。	○「乳幼児の発達に必要な経験が得られる指導計画の立案となっているか」について、職員の気付きを引き出しながら助言し、園の保育の改善を図る。
	⑤乳幼児の姿に応じた環境構成や援助を工夫する力	○乳幼児の発達や興味・関心と環境との関係に目を向け、環境が乳幼児の育ちや学びに影響することに気づく。 ○乳幼児の遊ぶ姿を見たり、同じ遊びに参加したりしながら、乳幼児と一緒に楽しむ。	○乳幼児の姿や活動の展開を予測して、環境の構成・再構成をする。 ○遊具や身近な素材・用具の特徴や可能性に気づき、保育に生かす。	○乳幼児の発達に必要な体験が得られるよう、乳幼児の興味・関心に応じて教材研究を行い、意図的・計画的に環境を構成する。	○環境構成の工夫、教材研究に率先して取り組み、実践を共有しながら、乳幼児の主体的な活動と多様な体験を支える保育技術を高める。	○職員が学び合える場を整え、気付きを引き出しながら助言し、園全体で保育の質の向上に努める。
	⑥実践を振り返り、改善につなげる力	○保育を振り返り改善する意義や、そのための手立てを理解し、記録をもとに自分なりに試してみる姿勢を知る。 ○乳幼児の姿や援助の内容を、記録にまとめて指導の過程を振り返り、次の保育に生かす大切さを知る。	○乳幼児の姿と自らの援助を重ね合わせて、記録を活用しながら日々の実践を振り返る。 ○指導計画のねらいや内容に照らして実践を振り返り、試行錯誤しながら、次の指導計画を改善する。	○振り返りや記録を通して、ねらいや内容、援助のあり方を見直し、自分なりの工夫を次の指導計画に生かす。 ○職員と記録を共有しながら実践を語り合い、互いの試みや工夫を学び合う。	○職員間で保育実践を学び合う場の中心的な役割を担い、指導計画の評価・改善を図る。	○記録を活用した学び合いの場を整え、職員の気付きを引き出しながら、適切な支援・助言をし、指導計画の評価・改善を図る。
	⑦特別な配慮を必要とする乳幼児(※1)を理解し支援する力	○乳幼児の発達や障害、多様性に関する基礎的な知識を学び、一人ひとりに応じた支援の基礎を知る。	○日々の保育の中で乳幼児の困り感や課題に気づき、特別な配慮を必要とする乳幼児の特性や状況を理解し、多文化や多様性への配慮を踏まえて、安心して過ごせるよう環境や関わり方を工夫しながら、一人ひとりに応じた支援を計画し、実践する。	○保護者や関係機関と連携を図りながら、特別な配慮や多文化・多様性への理解を踏まえ、一人ひとりに応じた適切な支援を計画し、実践する。	○園内委員会等で、専門家と意見交換を行ったり、園外研修等で情報を得たりして、特別な配慮を必要とする乳幼児への園としての対応を常に確認する。 ○関係機関と連携を図り、一人ひとりへの理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら適切な支援を行う。	○関係機関と連携しながら、特別な配慮を必要とする乳幼児や保護者の支援について職員と共に考え、園全体で組織的に取り組む。
C つながりを生かす(連携・協働)	⑧組織の一員として役割を果たす力	○自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の思いを受け入れる姿勢を身に付け、他者と協力することの大切さを知る。	○組織の一員としての自覚をもち、職員と協働する。	○自身の職務を遂行するだけでなく、職員と信頼関係を構築し、課題解決に努める。	○保育の改善や充実に向けて、職員と共に考えながら、園全体の組織的な取組の中心的な役割を担う。	○課題解決に向けて、職員の気付きを引き出しながら支援・助言し、計画的に園運営の改善を図る。
	⑨幼児教育の情報を収集し、わかりやすく発信・共有する力	○様々な情報の収集や発信をするための基礎的な方法を知る。	○保育・教育に関わる情報を積極的に収集し、教材研究や援助の工夫に生かす。 ○乳幼児の姿や保育で大切にすることを、掲示物や家庭への通信等で保護者にわかりやすく伝え、共有する。		○保育・教育に関わる情報を整理し、自園の課題解決の参考にする。 ○園の実践を発信し、幼児教育の重要性を、保護者や地域と共有する。	○保育・教育に関わる情報や社会の情勢を把握し、保育の質の向上を図る。
	⑩保護者と信頼関係を築き、子育て支援を推進する力	○子育て支援の重要性を知る。	○保護者の気持ちに寄り添い受け止めながら、乳幼児の姿を共有し、保護者との良好な関係を築く。	○相談しやすい雰囲気をつくり、保護者の思いを受容的に受け止め、専門性をもって対応する。	○保護者同士の関係をつなぎ、保護者が育ちあう場を提供する。 ○保護者に、保育・教育の意図や、遊びや体験を通しての子どもへの育ちを伝え、相互理解を図る。 ○様々な不安を抱えた保護者へ、必要に応じて関係機関との連携を図り、適切な支援をする。	○園全体として、保護者を支援する中心的な役割を担う。
	⑪幼保小の円滑な接続に向けて連携・協働する力	○乳幼児期の育ちや学びが、小学校以降の学びにつながることを知る。	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、乳幼児期から小学校以降の発達を見通し、保育を展開する。	○小学校教員と共通の視点を持ち、保育・授業を参観し合い、子どもの育ちを中心に据えた対話を通して、相互理解・実践を深める。	○校区の校園において、「目指す子ども像」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等についての共通理解を図り、「架け橋カリキュラム」の開発や定期的な検証・改善の中心的な役割を担う。	○園全体として、幼保小接続に関する年間計画を立て、職員の役割分担や協力体制を整える。 ○校区の校園や行政機関、家庭、地域と連携し、幼保小接続を推進する。
	⑫地域社会と連携・協働する力	○自然や文化、人材等、地域とつながる保育の大切さを知る。	○地域の自然や文化にふれ、そのよさを知り、身近な遊びや保育に取り入れる。	○地域の自然や文化のよさや魅力を捉え、ねらいをもって保育に生かし、自らの保育を豊かにしていく。	○地域社会との連携体制を整え、地域の人材とともに保育を充実させる中心的な役割を担う。 ○地域における子育て支援の中心として、職員と一緒に家庭・地域との連携・協力を努める。	○滋賀の自然や文化を理解し、地域社会と連携・協働し、地域の人材を効果的に活用して保育の充実を図る。 ○地域における子育て支援の中心として、職員をリードして家庭・地域との連携・協力を努める。

※1 特別な配慮を必要とする乳幼児：障害のある乳幼児および外国人乳幼児、性の多様性への理解と配慮を必要とする乳幼児等のことをいう。

※ 幼稚園・認定こども園・保育所等の、教諭・保育教諭・保育士を「保育者」という。 ※ 幼稚園、認定こども園、保育所等を「園」という。 ※ 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園保育・教育要領、保育所保育指針を「要領・指針」という。